

NEWS RELEASE

報道関係者各位
取材・掲載をお願いいたします

2023年7月26日
公益財団法人 帆船日本丸記念財団



横浜みなと博物館

企画展 関東大震災 100 年

船と港から見た関東大震災

2023 年 8 月 26 日 (土) → 11 月 5 日 (日)



大きな被害を受けた
大さん橋周辺と救援船
1923 (大正 12) 年
『大正震災地写真帖』より

■開催概要

展覧会名：企画展 関東大震災 100 年 船と港から見た関東大震災

会期：2023 年 8 月 26 日 (土) — 11 月 5 日 (日)

会場：横浜みなと博物館特別展示室

開館時間：10:00～17:00 (最終入館 16:30)

休館日：月曜日※ただし、9 月 18 日(月・祝)、10 月 9 日(月・祝)は開館し、それぞれ翌平日は休館

入館料：一般 500 円、小・中・高校生 200 円 65 歳以上 400 円 (博物館入館券)

※帆船日本丸との共通券 (一般 800 円、65 歳以上 600 円、小・中・高校生 300 円) で本展もご覧になれます。

※毎週土曜日は小・中・高校生は共通券が 100 円の特別料金になります。

※本展のみ見学できる入館券 (一般 200 円、小・中・高校生・65 歳以上 100 円) もございます

交通：JR 根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車、みなとみらい線みなとみらい駅・

馬車道駅下車 いずれも徒歩 5 分

助成 みなとの博物館ネットワーク・フォーラム、一般財団法人 山縣記念財団

後援 横浜市港湾局、(一社)横浜港振興協会、神奈川県博物館協会、神奈川新聞社、テレビ神奈川

神奈川県博物館協会
神奈川震災100年
プロジェクト参加館

神奈川震災100年

みなとの博物館
ネットワーク・
フォーラム助成事業



■ごあいさつ

今から 100 年前、1923（大正 12）年 9 月 1 日に発生した関東大震災は、東京・横浜を中心とした広い地域に大きな被害をもたらしました。横浜港では開港から 60 年余りをかけ作り上げてきた、大さん橋、新港ふ頭をはじめとした東洋一の近代的港湾設備が一瞬にして崩壊したのです。

一方、震災発生直後から、横浜港をはじめ各地の港は人命救助、救援物資輸送、避難の場としても使われ、商船、艦艇など多くの船舶が活躍しました。また、関東大震災は、横浜港、東京港、神戸港、清水港など主要港がその性格や設備を変化させるきっかけともなりました。

今回の企画展では、「船」と「港」という視点から関東大震災の被害と復興をとらえていきます。関東大震災から 100 年の節目の年に、過去の災害に学び、現在の防災について“わがこと”として考えるきっかけになれば幸いです。

■本企画展のみどころ

◆震災発生直後から横浜港では船による救助活動が始まり、数日後から救援物資の輸送や避難民輸送が始まりました。港ならではの救助活動について、約 50 隻の船舶写真や動画で具体的に紹介します。

◆関東大震災は、横浜港約 160 年の歴史の中で最大の災害でした。震災により横浜港は貿易のあり方や、港の施設を大きく変えることとなります。横浜港震災復旧工事の写真や図面、震災後の横浜港の航空写真などで横浜港の変化を探ります

◆関東大震災は国内の主要港にも影響を与えています。本企画展では、横浜港のライバル港であった神戸港、東京港と、震災時に避難民輸送の行き先として活躍した清水港の変化を紹介します。

◆現在の横浜港をはじめ全国の港では様々な防災対策や船を活用した救助方法が考えられています。最新の港の防災について紹介します。

◆主な展示品 関東震災全地域鳥瞰図 1924（大正 13）年 画：吉田初三郎、写真 上空から見た横浜港の被害状況（『関東震災地写真帖』より）、写真 震災発生第一報を打電した貨客船これや丸他震災時に活躍した約 50 隻の船舶写真、模型 避難民輸送に活躍した貨客船上海丸、横浜港震災復旧工事写真帖、動画 横浜大震災（惨状）※横浜市中心図書館蔵、動画 横浜新港における救護品の陸揚 ※国立映画アーカイブ蔵 山下公園のがれき 等 約 300 点

■展示構成

プロローグ 震災前の横浜港

1 関東大震災発生

2 船による救助活動

2-1 震災発生を知らせる

2-2 海軍による救助活動

2-3 救援物資は船で運ばれた

2-4 避難民を船で輸送

3 震災による港の変化

3-1 港をつくり直す（1）

—横浜港の震災復旧工事

3-2 港をつくり直す（2）

—横浜港の拡張と復興の完結

3-3 新しい港をつくる—東京港

3-4 生糸輸出港へ—神戸港

3-5 国内屈指の木材港へ—清水港

4 震災の教訓を生かして

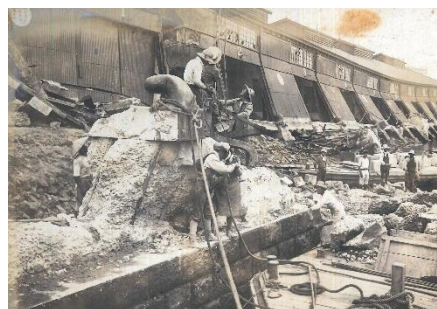
4-1 国内の港をつなぐ

—命のみなとネットワーク

4-2 横浜港の防災

4-3 わたしたちの防災

■初公開資料



（2 枚とも）新港ふ頭の岸壁復旧工事写真 1923～1924 年 横浜港の復旧工事は約 2 年という驚異的な速度で完成した

写真 横浜港の復旧工事の完成を祝う人々 1924（大正 13）年頃

■関連行事

●2館で学ぼう！よこはま防災クイズラリー

横浜みなと博物館・横浜市民防災センターの2館を見学してクイズに答えよう！2館のクイズに全問正解で防災や船に関するグッズをプレゼントいたします。クイズ用紙は各館および各館WEBで配布。
日程：8月26日（土）～11月5日（日）

●ガイドツアー なるほど！ミナト散歩～横浜港周辺の震災遺構をめぐる

博物館で学芸員の企画展展示解説を聞いた後、横浜シティガイド協会会員による案内で横浜港周辺の関東大震災遺構を歩いてめぐります 共催：NPO 法人 横浜シティガイド協会

日時：10月15日（日）、21日（土）、25日（水） 10：00～13：00

集合：横浜みなと博物館総合案内 10時集合。13時頃山下公園で解散予定

参加費：1,000円（企画展入館料、ガイド料等含む）

定員：各回20名

申し込み方法：9月1日（金）より申し込み開始。先着順。

件名を「ミナト散歩参加申し込み」とし、参加を希望する日、参加者全員の住所、氏名、電話番号を明記の上、横浜みなと博物館（museum@nippon-maru.or.jp）までメールでお申し込みください。定員に達し次第申し込みを締め切ります。

※今回お申込んだ個人情報は当行事の運営以外の目的で使用することはありません

●学芸員による展示解説

日時：9月10日（日）、10月22日（日）、11月5日（日） 各日2回（11:00～、14:00～）、
1回45分程度

会場：横浜みなと博物館特別展示室

定員：各回15名程度／先着順

参加費：博物館入館料 ※申込不要、当日特別展示室入口にお越しください

【情報提供】横浜みなと博物館のある、日本丸メモリアルパークで防災イベントが開催されます！

防災啓発イベント『関東大震災100年～今できること～「過去を知り、未来に繋げる」』

日時：9月2日（土）10時00分から16時00分まで（荒天中止）

場所：日本丸メモリアルパーク及び横浜みなと博物館

入場：無料（一部有料エリアあり）

内容：消防音楽隊による演奏、起震車による地震体験など

主催：横浜市民防災センター 共催：公益財団法人 帆船日本丸記念財団

※本イベントについてのお問い合わせは、消防局横浜市民防災センター 045-312-0119までお願いいたします。

※主な展示資料の画像は添付の企画展チラシをご覧ください。

お問合せ＝公益財団法人 帆船日本丸記念財団

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-1-1

TEL 045-221-0280(代)／FAX045-221-0277

<https://www.nippon-maru.or.jp/>

[広報担当：久保井／学芸担当：三木]

※デジタルデータをご用意しています。担当者までご連絡下さい。

プレス向け内覧会のお知らせは次ページにございます

横浜みなと博物館企画展
関東大震災 100 年
船と港から見た関東大震災
プレス内覧会 取材申込書

FAX:045-221-0277 (学芸課 三木 行)

【2023 年 8 月 22 日(火) 申込締切】

8 月 25 日(金) 11:00~12:00 のプレス内覧会に参加します

御所属	
役職	
御芳名	
撮影	☐ スチール ☐ ムービー
御連絡先	電話 _____ () 携帯電話 <当日の御連絡先> _____ () メールアドレス _____ @ _____
放送・発行予定日	月 日 (媒体) / 未定

1. 当日は、横浜みなと博物館 1 階の総合案内までお越しください。
10:30 に受付を開始します(11:00 までにお越しください)。
2. 受付で名刺を頂戴します。また、腕章の着用をお願いします。
3. 専用駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。